

## 29年6月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 6月1日～ 29年6月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
6月分の回答企業数は15社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/6月	7月	8月
入荷動向	スギ	0.0	△ 10.0	0.0
	ヒノキ	7.1	△ 7.1	△ 8.3
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 75.0	0.0	25.0
消費動向	スギ	5.0	5.0	10.0
	ヒノキ	21.4	21.4	7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
在庫動向	スギ	△ 6.3	△ 18.8	△ 12.5
	ヒノキ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	25.0	50.0

・製材用原木の荷動き動向は、スギは6月の横ばいが7月は減少、8月は再び横ばいに。ヒノキは6月の増加が7月、8月は減少に。カラマツは3カ月連続で減少。トドマツは6月の減少から7月は横ばい、8月は増加に。  
・製材用原木の消費動向は、スギ、ヒノキとも3カ月連続の増加。カラマツは3カ月連続で横ばいで推移。トドマツは6月の横ばいが7月、8月は減少に。  
・製材用原木の在庫動向は、スギ・ヒノキ及びカラマツは減少傾向。トドマツは6月の減少から7月、8月は増加に。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	29/6月	7月	8月
スギ	△ 15.0	△ 2.5	△ 2.5
ヒノキ	△ 14.3	△ 14.3	△ 7.1
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・製材原木の価格動向は、スギ・ヒノとも弱含み、カラマツ及びトドマツは保合いで推移。

## モニターからのコメント

## '(原木荷動き)

・5月末の原木在庫は総量で横ばいとなっており、カラマツとトドマツは半々となっている。4月末はカラマツ4：トドマツ6であった。生産量は横ばいである（北海道）。  
・国有林のシステム販売契約が遅れ一般材も造材時期ではないためトドマツの入荷が減少。消費はフル生産で5,000m<sup>3</sup>もトドマツ丸太在庫は少なく、先は生産調整。現状で半月分の在庫（北海道）。  
・入荷、消費、在庫とも前月と同程度、ここまで天候が安定しているので安定的な操業が見込まれる（東北）。  
・入荷動向は、虫害のため入荷を制限し減少（関東）。

・スギ丸太の出材は、例年よりやや多い。生産は上向き、販売はますます、価格は上がらず（中国）。  
・好天が続いているため入荷に困ることはない。ヒノキは若干不足気味。消費は横ばいで変化なし。梅雨入りを控えて在庫は減る方向（中国）。  
・ヒノキ丸太は順調に出材、スギは相変わらず。中目は普通、柱口が少ない状態。消費は入荷に合わせて製材。在庫は、スギ・ヒノキとも3m、4mの14cm～20cmまでは入荷即製材という状況なので在庫が増えない状態（中国）。  
・入荷は梅雨の影響がどこまであるかがネック。消費は特に変化はない（九州）。  
・7月、8月は梅雨のため入荷はやや減少。消費は機械入替えて約20%生産増加で残業を続行。7月、8月の在庫は少々減少（九州）。

(原木価格)

- ・基本的には価格安定、全道的には不足感あれば価格が上がると予想（北海道）。
- ・スギ・ヒノキとも出材減少のため価格は上昇。ただし、今年为天候は晴天が多いとの見通しから、値動きは抑えられると思われる（東北）。
- ・素材生産業者からの購入単価を一定に保っているため、原木価格は横ばい（関東）。
- ・入荷は製材に合わせて入荷するのでほとんど差異はない。生産体制は変わらず、原木が痛む時期なので在庫を減らしている（中部）。
- ・旬切りの丸太ではないので、価格は多少下がると思う（中部）。
- ・スギに関しては下げ幅なし。ヒノキは若干下げ傾向（中国）。
- ・スギは軟調、ヒノキは3m、4mの14cm～18cmは強いが他は軟調（中国）
- ・価格は横ばいだが、天候不順などの要因次第だ（九州）。
- ・ヒノキ価格は6月の天候・出荷良好のためやや下落。7月、8月は梅雨入りのため出荷減少（九州）。

## 29年6月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/6月	7月	8月
生産動向	スギ	22.2	16.7	11.1
	ヒノキ	25.0	16.7	16.7
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 16.7
出荷動向	スギ	11.1	5.6	5.6
	ヒノキ	33.3	8.3	10.0
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
在庫動向	スギ	△ 27.8	△ 16.7	△ 5.6
	ヒノキ	△ 41.7	△ 16.7	△ 8.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0

・製材品の荷動き動向は、スギ・ヒノキとも3カ月連続で増加。カラマツは3カ月連続の横ばいで推移。トドマツは6月の横ばいから7月、8月は減少に。

・製材品の出荷動向は、スギ・ヒノキとも3カ月連続で増加。トドマツは6月の横ばいから7月、8月は減少に。

・製材品の在庫動向は、スギ・ヒノキとも3カ月連続で減少。カラマツは3カ月連続で横ばいで推移。トドマツは6月の減少から7月、8月は横ばいに。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/6月	7月	8月
スギ	柱角 KD10.5×3	11.1	5.6	5.6
	柱角 KD12×3	5.6	△ 5.6	△ 5.6
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	12.5	12.5	12.5
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	11.1	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	△ 10.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	30.0	0.0
柱角 KD12×3		20.0	0.0	0.0
土台角 10.5×4		40.0	20.0	20.0
土台角 12×4		8.3	△ 8.3	△ 8.3
通し柱 12×6		0.0	0.0	0.0
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・製材品出荷価格の動向は、スギは柱角KD10.5×3及び母屋角が強含みだが、柱角KD12×3が弱含み。その他はおおむね保合いで推移。

・ヒノキは柱角が6月の強含みから7月、8月は保合に。土台角10.5×4は強含み。土台角12×4は弱含み。そのほかは保合いで推移。

・カラマツは梱包仕組み板及びラミナは保合いで推移。

・トドマツサンギも保合いで推移。

## モニターからのコメント

## (製材品荷動)

- ・生産動向は、トドマツの原木在庫に合わせた生産へ。出荷は堅調（北海道）。
- ・生産動向は、スギに関しては梅雨入り前に丸太の入荷が強化されたこと、新たに稼働した新工場が5月に本格稼働し、着実に生産を伸ばしている。ヒノキに関しては、米ヒバKD土台角不足もあって、生産が間に合わない状況。マーケットインを目指す。出荷動向は、スギの引き合いが戻ってきた。地場の工務店はまだ元気がない方で着工も遅れてはいるが、6月、7月と徐々に始まる見通し。ハウスメーカーも前年並みの見通しは継続。ヒノキは出荷が間に合っていない状況。土台不足に関しては、まだ先が見えない。在庫動向は、スギ間柱が在庫薄。柱中心に製材している。今後、さらに在庫が薄くなると予想。ヒノキはKD土台が特に在庫薄（東北）。
- ・全般的に動きは悪いが、稼働日並みの生産は継続。出荷は既存販路の荷動きが悪い。在庫整理を行うため出荷はそれなりだ。在庫は、レギュラー品以外の在庫整理を進めるため減少（中部）。
- ・生産動向は変化なし。出荷は、民間需要が落ち込んでいるため公共工事でカバー。在庫は製材待ちの受注残が多く、一部の製品で欠品状態（中国）。
- ・スギ・ヒノキとも3m、4mの14cm～20cmまでは入荷即製材という状況。出荷も順調で作っただけ捌けていく状況。従って在庫が増えない（中国）。

(製材品出荷価格動向)

- ・カラマツ製品は、為替レートが110円で安定していることから、外材価格が下がらないため国産材へのニーズが長期安定している（北海道）。
- ・トドマツ丸太が値上げになれば、順を追ってサンギを値上げする予定（北海道）。
- ・スギ柱角（KD）10.5角は、6月時点で案件が進展せず10月以降にずれ込む見込み。地場工務店の着工数は月毎に増え始めている。スギに関しては、集成材の需要が増えているが、無垢の人気も高い。前年度並みの需要が見込めるので、7月、8月へ向けて価格は横ばいないし上昇。ヒノキ製品はKD土台の不足が続いており、先が見えない。土台不足のため柱を取る余裕がない（東北）。
- ・スギ製材品の価格は、横ばいで落ち着いている。A品は売上良好で、B品はやや落ち気味（関東）。
- ・スギの相場は相変わらずだ。ヒノキは少し上げにて案内している（中部）。
- ・大手ハウスメーカーが発注量を抑えているため、スギは3mの12角が弱い。ヒノキは4mの12角を除いて安定傾向。スギ・ヒノキの販売単価はほとんど変化なし（中国）。
- ・ヒノキ土台角4m×10.5角は少し上昇。ヒノキラミナの注文は少し増えてきた（九州）。

## 29年6月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

## イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/6月	7月	8月
仕入動向	米マツ丸太	50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・製材用原木の仕入動向は、米マツ丸太は6月の増加が7月は横ばい、8月は減少に。NZラジアータは6月の横ばいから7月、8月は減少に。

・製材用原木の消費動向は、米マツ丸太は6月の増加が7月は横ばい、8月は減少に。NZラジアータは3カ月連続で横ばいで推移。

・製材用原木の在庫動向は、米マツ丸太は6月の増加が7月、8月は横ばいに。NZラジアータは6月の横ばいから7月、8月は増加に。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/6月	7月	8月
米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・製材用原木等の購入価格は、米マツ丸太は6月の強含みが7月、8月は保含いに。ニュージーランド丸太は6月の保含いから7月、8月は強含みに。

## モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・5月から7月は不需要期のため入荷、消費、在庫とも低迷している（中国）

(原木価格動向)

- ・7月現地積み原木は値上げの見込みだ（中国）。

29年6月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	29/6月	7月	8月
生産動向			
米マツ製材品	50.0	0.0	△ 50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	100.0	△ 100.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	△ 100.0	50.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

米マツ製材品の生産動向は、6月の増加から7月は横ばい、8月は減少に。NZラジアータ製材品は3カ月連続で横ばい推移。

・米マツ製材品の出荷動向は、6月の増加が7月は減少、8月は再び増加に。NZラジアータ製材品は6月の横ばいから7月、8月は減少に。

・米マツ製材品の在庫動向は、6月の減少が7月は増加、8月は横ばいに。NZラジアータ製材品は6月の横ばいが7月、8月は増加へ。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/6月	7月	8月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツ平角、正角、小割とも3カ月連続保合で推移。

・NZ梱包材割板、割角及び土木用材は3カ月連続保合いで推移。

## モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・5月から7月は不需求期のため入荷、消費、在庫とも低迷している（中国）

(製材品出荷価格動向)

- ・7月現地積み原木は値上げの見込みだ（中国）。